

# 生涯スポーツ

## ダンスの特性をさぐる

— 楽しいフォークダンス、  
社交ダンス —

神奈川大学

山下 昭子

ダンス(舞踊)や音楽は、時代の推移とともに生きている。今、何故踊るのか、といわれたら、今だから踊る、ということになるうか。踊りのもつ要素(感情やリズムによる心の表現)は、すでに遠く原始の時代から日常生活に重要な役割を果たしてきているといえよう。

ところで、新学習指導要領は、ダンスの内容を「創作ダンス」と「フォークダンス」で構成し、さらに「その他のダンス」についても各学校の実情に応じて指導することができ

るように改められている。とりわけ生涯体育・スポーツの重視や国際理解を深めるように明示されている。前者は、日本の高齢化社会ふまえて、いかに豊かに健康で長生きできるかという点に重点をおいたものであり、後者は、日本民謡や諸外国の民謡をとおして、異文化の相互理解を基本にした心のふれ合いに重点をおいたものと理解できる。これらの諸点から、ここではフォークダンスと社交ダンスについてその発展の背景と特性について所見を述べることにする。

フォークダンスと社交ダンスは、ともに娯楽としての色彩が濃く、社会の歴史の変遷とともに変化して現在に至っている。フォークダンスは、一般民衆の娯楽として各国々の地域ごとに風俗、習慣などを基本としているので、それぞれに特徴のある動きが見られる。したがって、踊りの内容が正確に踊り継がれることに意味がある。一方、社交ダンスの起源は、フォークダンスの系統が貴族社会に移入されると、その内容も娯楽だけでなく教養とし、また社交としての意味を含めた歴史を経て現在の形態をなしている。これは、フォークダンスのようにそれぞれの曲に振り付けがつけられているのではなく、ワルツ、タン

ゴなど種目ごとの型をなし、それを組み合わせでカッパルで踊るものであり、モダン部門とラテン部門の二つの系統にわけられている。モダンはヨーロッパで古くから踊られ、ラテンは中南米地方の民族舞踊が社交ダンスとして整えられた背景がある。また、種目と相違点をまとめた次の表のようになろう。

以上の観点からフォークダンスと社交ダンスの特性について述べたが、これらは、人間相互の理解を深める要素を有している。つまり異文化社会における民族が唯一理解しあえる言葉がフォークダンス、社交ダンスには含まれている。即ち、国境を越えた異民族間のコミュニケーションと心のふれあいを演出する人類最大の手段の一つであると考えられよう。

社交ダンスの種目と相異点

| 項目 | 部門                             |                          |
|----|--------------------------------|--------------------------|
|    | モダン部門                          | ラテン部門                    |
| 種目 | ワルツ、ブルース、タンゴ、ウィーンナジ、パドレナ、ジャズなど | ルンバ、サンバ、チヤチャ、チャマンボ、ジャズなど |
| 振付 | 男女は近寄り組んで踊る。自由な方向              | 男女は離れて組む。自由な方向           |
| 表現 | 現男は近くで組んで踊る。自由な方向              | 現男は近くで組んで踊る。自由な方向        |
| 移動 | 広く移動の必要はない                     | 広く移動の必要はない               |